

拾芥抄

原本は鎌倉時代中期成立か。「拾芥抄」(京都大学・清家文庫蔵)の巻三(明応元1492年の写しか)の「諸寺部第九」「廿一寺」の上段の書き込みと思われる所に、

戸隠
大山 地蔵

とある。大山が地蔵であることは分かるが、戸隠が地蔵というのは疑念が残る。ただし、戸隠という概念の中に飯綱も含むならば、飯綱の地蔵を当てたのかも知れない。また、江戸期の「寛永壬午孟夏吉旦西村氏吉兵衛新刊」(1642年)の「拾芥抄」にはこれらがなく、「廿一寺」の次は「六勝寺」、次が「諸寺」で、順序も入れ替えられ追加もされていて、この「拾芥抄」には、

戸隠
影光寺古佛
遊・行ノ所

とある。

「拾芥抄」は鎌倉期にその原型が成立し、その後書き加え等の改変がなされたと思われる。「戸隠地蔵」とあるのは室町期であり、

「戸隠影光寺古佛
遊・行ノ所」とあるのは「寛永壬午孟夏吉旦西村氏吉兵衛新刊」であって、何時戸隠のことが「拾芥抄」の写本などに記され始めたのかは不明。

註

清家文庫の「拾芥抄」と「寛永壬午孟夏吉旦西村
氏吉兵衛新刊」は京都大学貴重資料画像として公
開されている。